

平成２９年度 第２回 熊野大花火大会交通円滑化協議会 ポイント

１．平成２９年の交通状況

１）来場者数

○H29年(木)：約 12 万人 （H28 年(水)：約 14 万人、H27 年(火)：約 7 万人）

○8 月 15 日から当日の午前中にかけて、尾鷲・熊野新鹿・新宮などで降雨が観測。

２）交通状況

<行き>

○会場を起点とした国道 42 号下り和歌山方面（尾鷲→熊野）の最大渋滞長は 13～14 時台の約 9km。H28 年と同程度。

<帰り>

○花火大会終了後、尾鷲南 IC 入口交差点を先頭に熊野尾鷲道路で最大約 7km の渋滞が発生。0:00 まで継続。

２．円滑化対策の評価

１）熊野尾鷲道路の通行規制

○熊野尾鷲道路では、地域の利便性・通勤・物流面等に更に配慮し、下り途中 IC のオフランプを開放。

○障がい者乗車車両まで通行対象車両を拡大した結果、昨年に比べ 10 台増加。

○国道 42 号下り和歌山方面（尾鷲→熊野）の所要時間は最大約 100 分であり、H28 年とほぼ同程度。

２）会場付近の渋滞対策（行き）

○早めの来場に対するインセンティブとして、くまの郷土物産展で使える 500 円クーポン券を配布したが、駐車場の入庫時間に大きな変化は見られなかった。

○荷さばきスペースの活用率の上昇により、国道 42 号の通過台数が増加。

荷さばきスペース以外での駐停車も確認されている等、駐車運用面で課題。

○単路部横断歩道での交通誘導の見直しにより、横断歩行者による車両停止回数が H28 年と比較して減少し、通過交通が増加。

３）会場付近の渋滞対策（帰り）

○荷さばきスペースの活用率は上昇し、国道 42 号の通過台数が増加。露天商による強引な駐停車や、花火大会終了後に一部車両が停車する等、駐車運用面で課題。

○帰りの交通分散を目的に、金山農村公園予定地駐車場、山崎運動公園駐車場を翌朝まで解放。渋滞が最大となる時間帯に全駐車台数の約 20%以上の車両が利用。

○国道 42 号の通行規制は、花火大会終了後約 40 分間で規制解除。（昨年よりも 20 分短縮）規制中にも、市街地側への道路横断を呼びかけることにより、迅速な交通規制開放を実現。

4) ツアーバスの利用促進

- ツアーバス利便性向上のため、優先出庫を実施したが、駐車場までの案内不足やトイレ利用等によりバスの出庫時刻は遅れ、遅い時間まで渋滞が継続。
- 公式HPに掲載した利用促進PRページ等は、昨年度と比較して閲覧者数が大幅に増加し、ツアーバスの認知度向上に寄与。

5) 情報提供

- H29年は会場付近および周辺で降雨が観測され、いくつかの臨時駐車場が閉鎖。閉鎖された駐車場にも車両が来場し、駐車場周辺ではうろつき交通が発生。
- 駐車場案内に対してのアンケート結果によると、『わかりにくい』『気づかなかった』と回答した方が約30%と比較的多く、さらなる改善が必要。

6) 市外での渋滞対策

- 坂場交差点は朝7時より信号現示を変更し、紀勢自動車道からの右折青時間を延長。朝ピーク時に渋滞が発生したものの、H28年と比較して約2時間早く渋滞が解消。
- 花火大会終了後、尾鷲南IC入口交差点を先頭に熊野尾鷲道路で渋滞が発生し0:00まで継続したが、信号制御の変更により、昨年度に比べ最大渋滞長は1km減少、渋滞時間も30分早く解消。

3. 今年の結果をふまえた主な課題

- 早めの来場の促進のため、インセンティブ付与や周知方法の改善が必要
- ツアーバスの帰りの出庫が遅れ、その影響により遅い時間まで継続。
- 雨天による駐車場の閉鎖により、閉鎖された駐車場周辺ではうろつき交通が発生。
- 交差点付近での交通管理者等への問合せにより、国道42号の通過交通が滞留。

4. 平成30年に向けた改善（案）

1) 早めの来場を促進するインセンティブ付与方法の改良

- 早めの来場と地域活性の観点から、臨時駐車場において先着1,000台へのクーポン券配布を継続。
- ポスターや公式HPへの記載により、インセンティブの内容の事前周知を強化。

2) 迅速なツアーバス出庫の支援

- 優先出庫時間の設定とバス会社への周知。
- 会場周辺におけるトイレの増設。

3) 情報提供によるうろつき交通の抑制

- 雨天時に想定される状況を踏まえた駐車場運用方法の設定や開閉情報提供の検討。
- VICSを用いた駐車場情報提供システムによる駐車場情報の配信。
- 来場者が着目しやすい満空情報の提供。
- 案内看板のレイアウトの変更による、わかりやすい交通規制情報の提供。